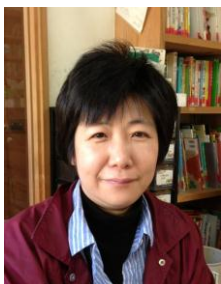


# 垣根無く、みんなで輪になろう！

特定非営利活動法人 フォーラムひこばえ  
理事 事務局長 井上 公子 さん



NPOってどんな団体かわからないという不安はあると思いますが、垣根無くみんなで輪になって取り組んでいきたいですね。（井上さん）

特定非営利活動法人「フォーラムひこばえ」は、希薄になりつつある人と人とのつながりを活性化し、誰もが暮らしやすい社会をつくっていくために、子どもからお年寄りまで、多様な人々が集う場として活動しています。

## ■多様な世代にとって、居場所になることを目指して■



元々は井上さんの親戚が持っていた事務所と広場を改修して2005年にスタートした「ひこばえ」。現在は、地域の集いの場として、児童館・放課後等デイサービス事業といった各種制度に基づく事業と、高齢者サロンのような制度外のものをうまく連携させて実施しています。例えば、小学4～6年生の学童については児童館事業の制度外の事業ですが、ニーズのある事業であるため、NPOとしての事業として実施しています。

また、高齢者の方々にも、高齢者サロンという形で編み物教室等の文化活動を通じた仲間作りを進めていて、子どもたちと高齢者の方々と同じ場所に集える空間を創り出しています。学校に居場所を持たない子どもたちにとっては、ここに来たら待ち望んでくれる馴染みの大人がいて、高齢者の方々にとっては、生きがいとなる文化活動をしつつ、子どもたちと触れ合う事ができる空間づくりを進めています。最終的には「ひこばえ」で知り合った人々が世代を越えて「ひこばえ」以外で集い、交流する動きが地域の中で生まれてくることを目標にしています。



## ■新たに地域に入り込んで活動することの難しさ■

「まだまだ地域の中では認知されていないんです。」そう残念そうに語る井上さん。ひこばえでは、「地域福祉」をテーマに掲げて活動をスタートしましたが、「その地域を作ってきた人たちを前にして『地域を作ります』なんて、人の禪で相撲を取るように思われても仕方がなかったな…。」地域との関わり始めた時を振り返ってみて、改めて地域で活動する上でもう少し配慮できた点があったと感じたそうです。

また、自治連合会等が開催している各種会議がありますが、児童館事業を実施するようになって初めてその場に呼んでもらえるようになりましたが、あくまで「児童館」としての付き合いしか持っておらず、NPO法人である「ひこばえ」は、まだまだ認知度が低い現状を痛感しました。

自治連合会・町内会・学区社協・民生委員等が役員として多数参画しているNPO法人とは違い、「ひこばえ」のように外部から人がその地域に入り込んで組織を作ったNPO法人は、その地域の自治に積極的に取り組んでいる方々から見れば、「数ある中の一つの会社」としか認識されておらず、特別扱いはできないという難しさがあるようです。「ひこばえ」にも自治連合会の会長が理事として関わってくださっていますが、数ある中の一つのNPO法人である「ひこばえ」だけを応援するという事はなかなか難しいそうです。

地域に認めてもらうためには、もっと力を付け、信頼できる組織にしていけないと痛感し、その打開策の一つとして、認定NPO法人や公益社団法人、社会福祉法人など、より信頼性もあり公益的な法人格の必要性も現在話し合っているそうです。

## ■今後の展開について■

自治連合会・町内会との連携については、現段階では自治連合会や町内会等のイベントへの積極的な参加や、福王子町内会の地蔵盆の会場として「ひこばえ」の広場の提供、毎年11月に開催している「ひこばえ祭」にて地域の方々に出展してもらっている等を挙げられましたが、今後、もっと積極的に自治連合会・町内会等と連携して事業を展開したいと井上さんは語ります。

その連携の具体的な例として、「こども110番の家」の調査を挙げられました。「こども110番の家」と看板を掲げているけれども、実はすでに空家になっている等、整理・更新ができていないという現状があり、自治連合会としても課題として感じておられるので、子どもたちと一緒に自治連合会や民生委員と協力して取り組みたいそうです。その他にも、特に高齢者の見守りやサークル活動など、実施したい取組があるため、自治連合会や町内会などに協働を呼び掛けておられます。

まだまだ取り組みたい事がたくさんあるご様子の井上さん。より良い地域を作っていくためには、自治連合会や町内会もNPOも、住む地域をより良くしたいという共通の目標を持つ仲間として、お互いが協力できるポイントを探しながら、時には自治会・町内会・NPOといった垣根を越えて手を取り合うことが大切であると感じました。

